

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

世代を継なぎ 人を睦む 村づくり

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

福島県東白川郡鮫川村

### 3 地域再生計画の区域

福島県東白川郡鮫川村の全域

### 4 地域再生計画の目標

本村の人口は1980年の5,537人以降、1990年までは緩やかに減少傾向を示してきた。しかし、1995年以降、減少数は拡大し、2005年から2020年の15年間では、1,043人減少している。2020年の国勢調査では3,049人となっている。この減少傾向は今後も継続すると見込まれており、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した本村独自の推計によると、2065年には1,442人となると推計されている。

本村の年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の1,295人から2020年には330人まで減少している。生産年齢人口（15歳～64歳）についても1980年の3,535人から2020年には1,703人まで減少している。一方、老年人口（65歳～）は、1980年の707人から2020年には1,246人まで増加しており、将来的には老年人口が生産年齢人口を追い抜くことが予想される。

本村の自然増減は、2015年以降、毎年約40人強の純減傾向が続いており、2020年には、死亡者数59人に対して出生者数16人の自然減（43人）となっている。

本村の社会増減は、1994年以降、一貫して社会減となっており、2020年には転出者数100人に対して転入者数43人の社会減（57人）となっている。

このまま人口減少が加速すると、地域のコミュニティの衰退や担い手不足による産業の衰退といった課題が生じる恐れがある。

これらの課題に対応するため、人口減少の負の影響を少なくし、村のよい面を

活かしていきながら、村の賑わいを創出することを目指す。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ目標の達成を図る。

基本目標 1 賑わいのある村づくりと人づくり

基本目標 2 稼ぐ力と雇用創出

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	地域団体による村のイベント数(中心地域)	0回	6回	基本目標 1
	村に住み続けたいと思う人の割合	73.1%	80%	
イ	公務を除く従業者数	756人	756人	基本目標 2
	職に関する講習会の実施 (チェーンソー・草刈り 払機)	0回	5回	

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

#### ① 事業の名称

「世代をつなぎ 人を睦む 村づくり」事業

ア 賑わいのある村づくりと人づくり事業

イ 稼ぐ力と雇用創出事業

## ② 事業の内容

### ア 賑わいのある村づくりと人づくり事業

#### I ふるさとキャリア教育と子育て支援プロジェクト

##### ①子育て支援事業の充実

- ・子育て支援拠点事業を充実させ、子育てに対する負担感や不安を軽減する。
- ・各種預りサービスを通じて多様化する保育ニーズに応える。
- ・放課後児童クラブを充実させ、保護者が働きやすい環境を整備する。

特に少子化や核家族化が進み、児童クラブに預ける家庭が増えているため、指導者の確保に努める。

##### ②支援が必要な子どもと家庭への対応

- ・医療費助成など保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、児童虐待の早期発見、防止等に取り組み、支援が必要な子どもと家庭を支える。

##### ③村の特性を生かす特色ある教育（ふるさとキャリア教育）の推進

- ・ふるさと鮫川を愛し、誇りに思う心を育むとともに、自分の将来の夢に向かってたゆまぬ努力を続ける心を育む。

#### II 移住・定住支援 空き家の活用プロジェクト

##### ①移住情報発信・移住者支援

- ・村への UI ターンを働きかけるホームページを作成したり、都内の UI ターンイベントに出展する等し、村での暮らしを包括的に紹介する。
- ・地域おこし協力隊の活用を念頭に移住コーディネーターを設置し、移住希望者や移住者の総合的支援を行う。

##### ②短期移住体験プログラム

- ・夏季休暇等を利用し村に滞在し、地域の暮らしを体験するプログラムを農家民宿等と連携して検討する。

##### ③空き家の貸し出し事業

- ・村外からの移住希望者へ、空き家の貸し出しを行う。
- ・貸し出しのための体制づくりとして、商工会や工務店等による村内の全体的な管理組織「空き家管理ネットワーク」立ち上げを検討する。

##### ④子育て世代住宅建設の支援

- ・子育て世代に対する、住宅建設やリフォームに対する支援を検討する。

### III 観光資源の活用と交流・関係人口増加プロジェクト

#### ①観光・交流資源の整備充実および有効活用

- ・国道289号のバイパス化により、これまでの交通体系から変化がもたらされるため、鹿角平観光牧場を拠点とした観光政策の推進のための事業計画の策定及び整備、天文台や星空等の事業と連動させた事業を展開する。

#### ②観光・交流機能の強化

- ・農村体験交流施設「山王の里」を活用し、都市住民との交流イベントを開催して、交流人口のさらなる増加を目指す。
- ・農家民宿の新規開設者に対する手続きや費用支援のほか、協議会への参加誘導により、交流人口の増加を図る。
- ・民間を活用した温泉旅館の運営により、新たな人の流れを生み出す。

#### ③広域観光・交流体制の充実

- ・東京鮫川会等各種団体と相互協力のもと、交流事業を展開する。
- ・東白川自転車活用推進計画に基づき、東白川郡4町村が協力し、観光と一体となったサイクルスポーツの推進を図る。

#### ④農村体験交流の推進

- ・交流人口の拡大と移住対策として、農村生活体験を中心に、村の魅力を堪能してもらい、移住検討のきっかけづくり事業を行う。
- ・大学生等を対象に、農村生活体験活動を行い、地域の魅力掘り起こしや移住定住に向けた事業を展開する。

### IV 村民の生涯現役プロジェクト

- #### ①社会福祉協議会や民生児童委員協議会等と連携しながら、各種福祉団体、福祉ボランティア団体、NPO等の育成・支援を行い、地域福祉を推進する多様な担い手づくりを進める。

- #### ②地域の高齢者が楽しく集える居場所として、地域ふれあいサロンの充実を促進する。

#### ③生涯学習推進体制の充実

- ・子どもから高齢者までが、興味と関心をもって積極的に参加できる学習や体験の機会を提供するとともに、学習施設の整備に努める等、生涯学習体制の充実を

図る。

④ニーズに応じた特色ある講座・教室の運営

・子育てや家庭生活、体験活動等ニーズに応じた特色ある講座・教室の運営を行う。

⑤大学等連携事業

・施策の目的別に連携する大学を選定していき、課題解決に見合った取り組みを行う。

V 館山公園を核とした中心地活性化プロジェクト

①賑わいの核となる公園整備

・村の中心部に集客の象徴として、子どもをはじめ老若男女が集える音楽イベントやマルシェも可能な広場がある多目的公園機能を整備する。

②公園周辺へ店舗等の誘致・周囲には起業による新たな店舗の誘致やチャレンジショップの開設等を通じて、回遊性を高め、賑わいづくりの相乗効果を図る。

③温泉施設、公園等文教施設等の周辺環境整備

・公園を中心とした面的整備に取り組む。また、その延長として周辺の環境整備にも取り組み、地域資源の有効活用を目指す。

④賑わいを促進するためのイベント開催

・特産品を販売する等、季節性のあるイベントを定期的で開催し、村内外から人を集め、常に賑わいのあるエリアとする。

イ 稼ぐ力と雇用創出事業

I 産業振興と担い手育成・創業支援プロジェクト

①農業の振興と高付加価値化及び6次化商品の開発、販売

・水田の活用推進及び耕作放棄地の防止のため大豆やエゴマ等の土地利用型作物の生産を振興するとともに、自然に配慮した農産物の栽培等による高付加価値化の農業振興を図る。

・大豆やエゴマの加工品開発と販売促進、担い手となる加工技術者の育成、加工施設等の整備を推進する。

・地域一体となった農地の保全活動を推進するため、「地域計画」を作成し、農地の集積や中核的担い手農家の育成を図る。

- ・後継者や担い手不足の解消を図るため、農業生産を行う法人や集落営農組織の推進を図る。

#### ②物産販売促進

- ・イベント等を通じて、村産農産物の安全・安心を消費者に対して直接理解していただくとともに、農産物や特産品の販売促進を図る。

#### ③特産品販売振興

- ・エゴマを加工品販売促進と原料確保のため、農家からエゴマを買い取る費用の一部について助成する。

#### ④環境と共生する企業等の誘致促進及び里山オフィス整備と起業支援

- ・村内における経済の活性化に向け、本村の優れた農村環境・里山景観と共生する企業や、研究機関等の立地促進に向けた取り組みを進める。

- ・テレワーク等、新たな働き方に対応し、気軽に働くことができる場所（起業できる場所）を提供することにより、移住者・起業者の増加または企業進出を促進する。

#### ⑤ハローワーク求人情報提供

- ・ハローワーク白河から送付される雇用情報をホームページで公開、窓口の情報誌を設置し、情報提供を行う。

#### ⑥商工業経営の安定化の促進

- ・商工業経営の安定化、経営基盤の強化に向け、各種融資制度の周知と活用促進に努める。

#### ⑦情報交流の場づくり

- ・新商品の開発や新たな事業立ち上げ等への意見交換、地域振興のための情報交換会、勉強会、アイデア等自由に言いあえる環境を整えます。また、それらに対応できるコーディネーター等を配置し、稼ぐ人・稼ぐ力を地域で組織的に育成する基盤を整備する。

## II 環境維持に向けた組織化と雇用創出プロジェクト

#### ①仮称「鮫川村環境公社」設立

- ・中山間農業の支援と農村環境の維持管理するため、組織的に支える仕組みとして仮称『鮫川村環境公社』の設立を目指す。

- ・担い手が高齢化した世帯の農地の管理を通じ、村内の環境維持に努める。

## ②生活支援ニーズに対応した雇用の創出

- ・草刈作業のほか、雪かき等を担い、暮らしの中の人手不足の需要も束ねて新たなサービスを創出する。
- ・農業半分・他の仕事を半分というように、現代版百姓を志望する人たちへ、仕事紹介等を通じて支援する。

## ③森林資源の利活用

- ・埋没している森林資源及び未利用地域資源の活用の向けた可能性を探るため、森林環境譲与税等の資金を活用した、ワークショップの開催を進める。
- ・未利用の森林資源を活用するため、間伐材や未利用木材を住民から買い上げ、「さぎり荘」等の薪としての活用を推進する。
- ・東白川4町村広域連携による地域森林資源活用を推進する。

## III 村にお金を落とす仕組みづくり「お互いさま運動」推進プロジェクト

### ①買い物弱者支援施設運営支援

「村民の店 すまいる」の運営費用の一部について、運営主体の村商工会に助成する。

### ②商店街の維持・存続に向けた取り組みの検討・推進

村内の事業所や地域の発展のために活動する商工会の活動を支援する。

### ③地域経済循環の推進

チャレンジショップやフリーマーケットとマルシェの合同イベント、軽トラ市の定期開催などを実施し、村に埋もれている起業者の発掘しさまざまな物が村内でも買えるシステムを構築します。

※ なお、詳細は第2期鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

### ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

### ④ 寄附の金額の目安

300,000千円（2022年度～2024年度累計）

### ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度2月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本村公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和7年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から令和7年3月31日まで